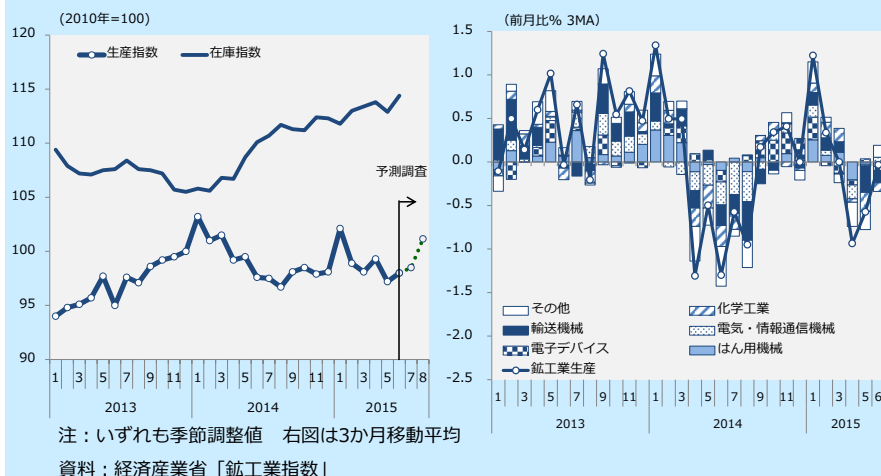


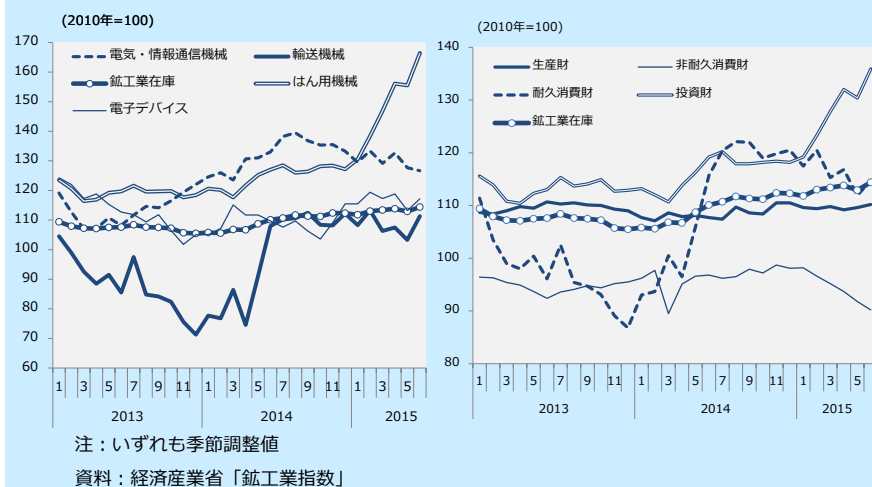
日本：鉱工業生産指数（2015年6月）

MRI Daily Economic Points
July 30, 2015

図表 生産・在庫指数／生産の寄与度分解



図表 業種別在庫の推移／財別在庫の推移



評価ポイント

2015年6月の結果

- 2015年6月の鉱工業生産指数(速報)は、季調済前月比+0.8%と2カ月振りに上昇した。先月、同▲2.1%と大きく低下した後の戻りとしては弱く、4-6月の生産は、同▲1.5%の低下となった。
- 生産低下の主因は輸出の減少にある。中国の構造調整に伴う成長減速などから、中国・ASEAN向けの輸出が減少しており、アジア向け輸出ウエイトの大きい、はん用機械、化学工業、電子デバイスなどで低下している。
- 内需関連の生産も弱含んで推移している。企業の設備投資意欲が強まっているものの、15年4月の軽自動車税引上げの影響で軽自動車の販売台数が大きく減少し、輸送機械工業を中心に生産調整圧力が強まっている。
- 在庫指数は前月比+1.3%と2ヶ月振りに上昇し、なお上昇基調で推移している。消費財の在庫水準は低下傾向にあるものの、中国向けの輸出減少などを受けて、財別では投資財、業種別でははん用機械の在庫水準が急上昇していることが原因。
- 製造工業生産予測調査によると、7月(前月比+0.5%)、8月(同+2.7%)と上昇を予測しているが、過去の実現率を踏まえれば、緩やかな回復にとどまる見通し。

基調判断と今後の流れ

- 生産は、消費や設備投資の回復、米国向け輸出の堅調を背景に持ち直しつつあったが、15年入り後はアジア経済の減速の影響などから、弱い動きが続いている。
- 先行きは、アジア向け輸出低調の長期化が懸念材料だが、国内では消費財の在庫調整が進展しており、企業の設備投資姿勢も積極化。雇用・所得環境の改善による内需の回復持続などを背景に、基調としては緩やかな回復を見込む。